



EXTON

24bit
RECORDING

ROMANTIC ITALIAN SONGS

ILONA Tokody
MASAHIRO SAITOH



C. インノチェンツィ Carlo Innocenzi (1899-1962)		G. ロッシーニ Gioacchino Rossini (1792-1868)		F. P. トスティ Francesco Paolo Tosti (1846-1916)	
1	さらば、栄光の夢よ! Addio, sogni di gloria!	4:30	10	踊り La danza	3:12
A. スカルラッチィ Alessandro Scarlatti (1660-1725)		G. ヴェルディ Giuseppe Verdi (1813-1901)		18	
2	私は心に感じる Sento nel core	3:59	11	孤独な部屋で In solitaria stanza	4:07
3	陽はすでにガンジス川から Già il sole dal Gange	2:01	12	ストルネッロ Stornello	1:55
G. カッチーニ Giulio Caccini (1550-1618)		R. レオンカヴァッロ Ruggiero Leoncavallo (1857-1919)		19	
4	アヴェ・マリア Ave Maria	5:05	13	朝の歌 (マッティナータ) Mattinata	2:08
5	アマリリ Amarilli	2:35	E. タリアフェッリ Ernesto Tagliaferri (1889-1937)		23
V. ベッリーニ Vincenzo Bellini (1801-1835)		14		起こさないで Nun me scetà	3:29
6	私のフィッリデの悲しげな姿 Dolente immagine di Fille mia	3:16	E. デ・クルティス Ernesto de Curtis (1875-1937)		15
7	マリノコンニエー、優しい妖精よ Malinconia, Ninfa gentile	1:21	16		孤独 Senza nessuno
G. ドニゼッティ Gaetano Donizetti (1797-1848)		17		帰れソレントへ Torna a Surriento	3:56
8	愛と死 Amore e morte	3:26	18		泣かないおまえ Tu, ca nun chiagne!
9	私は家を建てたい Me voglio fà na casa	2:21	イロナ・トコディ(ソプラノ) Ilona Tokody (soprano)		斎藤雅広(ピアノ) Masahiro Saitoh (piano)

1998年12月6、7日 富山・北アルプス文化センターにて収録
 Recording Date: 6,7 Dec.1998
 Recording Location: North Alpen Culture Center, Toyama
 協力:(財) 上市町健康文化振興財団
 TOTAL TIME: 72:25

曲目解説

平林香織

1. C.インノチェンツィ:さらば、栄光の夢よ!

カルロ・インノチェンツィ(1899年生まれ)が1952年頃に作曲し、1960年にイタリア国营放送主催のヴィチエンツァでのカンツォネッソマで第2位になった曲で、若い頃の輝かしい夢と希望が崩れ去った悲しみが歌われる。後に、フランスに入り女流詩人のミレイユ・ブロセがフランス語の詩をつけて、イヴェット・ジローが歌い、〈Adieu〉というタイトルで大ヒットしたため、日本ではむしろシャンソンとして親しまれた。

2. A.スカララッティ:私は心に感じる

3. A.スカララッティ:陽はすでにガンジス川から
アレッサンドロ・スカララッティ(1660-1725)はパレルモに生まれ、主にナポリで活躍したイタリアの作曲家で、チェンバロ曲を多数作曲しているドメニコ・スカララッティの父。イタリア・オペラの新しい方向性を示す等、音楽史上において重要な役割を果たした。オペラや室内カンタータをはじめ数多くの曲を作曲したが、現在ではパブリックティがまとめた《Arie antiche イタリア古典歌曲集》におさめられているア

リアやカンツォネッタのみが単独で演奏されている。ここで歌われている2曲もイタリア古典歌曲として親しまれているもので、ダ・カーポ・アリアの形式で書かれた〈私は心に感じる〉は同名の室内カンタータからのアリア。〈陽はすでにガンジス川から〉は初期のオペラ『愛のまこと』(1680年初演)の中のカンツォネッタとして歌われたもので、インドのガンジス川の輝かしい朝の情景を生き生きとした音楽の上に鮮やかに描き出した曲。2節からなり各節ともABAという形式の旋律が繰り返される有節アリア。

4. G.カッチーニ:アヴェ・マリア

5. G.カッチーニ:アマリッリ

当時、最高のテノール歌手であり声楽教師として名前を知られていたジュリオ・カッチーニ(1550-1618)は、メディチ家とのかかわりが深かったために「Camerata Fiorentina フィレンツェのカメラータ」の主要メンバーとなり、ヤコポ・ペーリとともにオペラの創始に深く関わった。しかし彼の教会音楽はほとんど残っていないのが現状で、わずかな断片やモチーフから復元する作業がなされており、この〈アヴェ・マリア〉もまた長い年月を経て再現されたもの。カッチーニは1602年に通奏低音技法とモノディ様

式(ソロの声部と通奏低音を有するもの)による新しい朗唱法の原理とあり方を示した作品集《Le nuove musiche 新音楽》を出版したが、〈アマリッリ〉はその第10曲におさめられたマドリガーレで、簡素な通奏低音伴奏のうえに、フェラーラの宮廷詩人ガッリーニの詩の抑揚が生かされた素朴で美しい旋律が歌われる。

6. V. ベッリーニ: 私のフィッリデの悲しげな姿

7. V. ベッリーニ: マリンコニア、優しい妖精よ
 “ベッリーニを愛さないような人は、音楽を愛していないのだ”とアリーゴ・ボイトが言葉を残したように、ベルカント・オペラの作曲家ヴィンチェンツォ・ベッリーニ(1801-1835)の旋律の美しさには特筆すべきものがあり、当時の人たちは彼を「Il cigno di Catania カターニャの白鳥」と呼んでいた。リストやショパンにも大きな影響を与え、彼の音楽を愛したショパンはベッリーニの墓の傍らに葬ってほしいと望んだほどだという。《3つのアリエッタ》の第2曲〈私のフィッリデの悲しげな姿〉は、ナポリの王立音楽院在学中に作曲した歌曲で、詩はジュリオ・ジェノイノの作ともグリエルモ・コトラウの作ともいわれている。1829年にミラノのリコルディ社から出版された《6つ

の室内用アリエッタ》の第1曲が〈マリンコニア、優しい妖精よ〉。ピアニストのフランチェスコ・ボリーニの妻マリアンナに捧げた、イッポリート・ビンデモンテの詩による歌曲であるが、女性パトロンの歌姫ジュディッタ・トゥリーナに贈られたものともいわれている。“Malinconia”はイタリア語で“憂鬱”の意。

8. G.ドニゼッティ: 愛と死

9. G.ドニゼッティ: 私は家を建てたい

ロッシーニ、ベッリーニと並びイタリア・オペラを代表する作曲家ガエターノ・ドニゼッティ(1797-1848)の、ナポリで出版された4曲の独唱曲と1曲の重唱からなる歌曲集《Nuits d'été à dautomme à Infrascata インフラスカータの秋の夕べ》からの2曲。インフラスカータは現在のヴェメロ地区にあたるナポリの丘陵地の名称で、当時はカプリ島やヴェスヴィオ火山などの絶景が望めたという。〈愛と死〉はかつての恋人の胸から奪った色褪せた花に最後の言葉をたくしながらか死んでいく男のカンツォネッタ。〈私は家を建てたい〉はドニゼッティ自身の詩によるソプラノのためのカンツォネッタ・ナポリターナで、〈Amor marinaro 船乗りの恋〉というタイトルでナポリターナのスタンダード・ナンバーとしても有名。ドニゼッティ

のブッフ的な才能が余すことなく発揮されており、彼の歌曲のうちで最も広く知られているもののひとつ。

10. G. ロッシーニ: 踊り

イタリア・オペラの作曲家ジョアッキーノ・ロッシーニ(1792-1868)は1829年の『ウィリアム・テル』を最後にオペラの作曲をやめ、その後はサロン用の声楽曲や器楽曲、宗教曲しか書かなかった。1835年にノリで出版した8曲のアリエッタと4曲の二重唱からなる《Soirées Musicales 音楽の夜会》の第8曲が〈踊り〉。恋の口説と獲得を模倣したナポリを代表する舞曲、タランテラのリズムにのせて歌われくナポリのタランテラ)の題でも親しまれている。

11. G. ヴェルディ: 孤独な部屋で

12. G. ヴェルディ: ストルネツロ

イタリア・オペラの巨匠ジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901)にとって初めて出版された曲集《6つのロマンス》第1集の第3曲が〈孤独な部屋で〉。後半部分には『イル・トロヴァトーレ』のレオノーラのカヴァティーナにも似た旋律が聞こえ、オペラを思わせるような雰囲気 that だようヴェルディ独特の美しいメロデ

ィの曲。〈ストルネツロ〉は1869年、『エルナーニ』『リゴレット』『椿姫』等のすぐれた台本をヴェルディに提供したスカラ座の舞台監督、フランチェスコ・マリア・ピアーヴェが病床に伏し、その貧窮にあえぐ家族を救うために、かつてピアーヴェが台本を書いたオーベールやメルカダント、トーマ等に声をかけて「ピアーヴェ救済のための歌曲集」の出版をリコルディに提案して作曲したもの。しかし他の作曲家は誰もこの提案に応じず、企画は実現することなくストルネツロ)のみが1905年になって出版された。ストルネツロ)というのは3行のシラブルからなるトスカーナ地方の民謡風の詩の形式のこと。

13. R. レオンカヴァッロ: 朝の歌(マッティナータ)

ヴェリズモ(現実主義)・オペラ『道化師』の作者として有名なイタリアの作曲家ルッジェーロ・レオンカヴァッロ(1857-1919)が、不世出の名テノール、エンリコ・カルーソーのために作詞作曲したもので、カルーソーは1904年にレオンカヴァッロ自身のピアノ伴奏でRCAに録音を残している。“Mattinata”とは夕べに窓辺で歌われる“Serenata セレナータ”に対し、朝歌われる恋の歌。“あなたが愛を生むのだから目覚めておくれ”…すがすがしい朝と恋人をた

たえたさわやかで明るい曲。

14. E.タリアフェッリ:起こさないで

エルネスト・タリアフェッリ(1889-1937)はイタリアのナポリターナ作曲家(ナポリターナは標準語で歌われるカンツォーネに対してナポリ方言で歌われる民謡や歌謡曲のこと)。ナポリの劇場やクラブなどで指揮者として活動していたが、1911年から作曲をはじめ「歌うナポリ」〈情熱〉などの多くの傑作を残している。

15. E.デ・クルティス:孤独

16. E.デ・クルティス:帰れソレントへ

17. E.デ・クルティス:泣かないおまえ

エルネスト・デ・クルティス(1875-1937)はカンツォーネの作曲家として有名なイタリアのピアニストで、作曲家サヴェーリオ・メルカダントの曾孫にあたる。名テノール、ベニアミーノ・ジューリとは大親友で彼の伴奏者として演奏旅行もしていたため、クルティスのヒット曲のほとんどはジューリがアンコールで歌ったことで広まった。クルティスと同じナポリ出身のバルビエリが作詞した〈孤独〉は、1915年にエンリーコ・カルーソーが歌い大ヒット、以来カンツォーネ・ナポリターナ

の傑作として世界中に知られている。原題〈Senza nessuno〉を標準語にすると“Senza nessuno(誰もいなくて)”。詩人である兄のジャンバッティスタ・デ・クルティスは弟の才能を愛し、数多くの詩を提供したが〈帰れソレントへ〉もその一つ。もともとはナポリ対岸のソレント半島にあるトラモンタート・ホテルのコミューンソングとして作曲されて完成祝賀会で初演されたが、音楽出版社の意見でジャンバッティスタが再びすべてを書き替え、ナポリ湾に面した美しいソレント港をたたえ、去っていく恋人によびかけるという現在の詩になってから大ヒットとなったナポリターナの傑作。〈泣かないおまえ〉は〈君をもとめて〉という題でも知られるセレナード。ボヴィオの書いたこの詩はナポリターナの中でも最も美しいといわれている。

18. F.P.トスティ:理想のひとつ

19. F.P.トスティ:魅惑(マリア)

20. F.P.トスティ:かわいい口もと

21. F.P.トスティ:夏の日

22. F.P.トスティ:さようなら!

フランチェスコ・パオロ・トスティ(1846-1916)はイタリアのオルトーナ・スル・マールに生まれ、ナポリ音楽院

に入りメルカダンテに作曲を学び、19世紀のオペラ全盛のイタリアにあって1曲のオペラも書かずに甘美なメロディに彩られた珠玉の名歌曲を数多く残した。イギリス王室の声楽教師でもあったため、美しいメロディをともなったヴォカリーズ唱法によるソルフェージュも残しており日本でも楽譜が出版されている。〈理想のひと〉ではナポリ時代の友人カルメロー・エッリーコの詩が、柔らかな3連符の伴奏にのせて美しいメロディで歌われる。ティート・スキーノやベニアミーノ・ジージ、ユッシ・ピョルリンクなどの往年のテノールの愛唱歌としてトスティの歌曲の中でも最も知られているものの一つ。〈魅惑〉は言葉のもつ美しさを十分に旋律の中に生かすトスティが、ノヴァーラの詩とともに美しい女性の不思議な魅力にとらえられた男の心の動きを描き出す。“Malia”は“魅惑・魔法”などの意。〈A vucchella かわいい口もと〉は標準語になおすと“la bocciuccia (小さな唇)”。トスティの親友で大詩人のガブリエーレ・ダンヌンツィオのナポリ方言の詩による歌曲で、1919年にエンリコ・カルソーが愛唱して有名になった。〈夏の月〉は3行詩のスタイルをもつ古いストルネッロ形式によるバラード。恋の悩みを月にうちあけるマッツォーラの詩を、さりげない曲はこびの中にも魅力たっぷり

に歌わせている。〈さようなら!〉はもともと英語の詩に作曲されたもので原題は〈Good-bye〉。アメリカ・ガリ・クルチやジェラルディン・ファーラー、ルイザ・テトラツィーニといった一時代前の大歌手たちは英語で歌っていたが、最近はずヴェッティのイタリア語訳で歌われることのほうが多い。トコディもこのアルバムにおいてイタリア語で歌っている。

23. R. ファルヴォ: 君に告げてよ

〈Dicitencello vuie〉なんとも舌を噛みそうなタイトルだが、標準語では“Diteglielo voi”となる。〈オーソレ・ミオ〉や〈泣かないおまえ〉などの数多くのナポリターナの名作を生んだピエディグロッタの歌祭りでは、1930年にロドルフォ・ファルヴォ(1873-1937)が発表して大賞を受賞。当時のナポリターナの大歌手、ヴェイトリオ・ノヴァーシが歌って大ヒットしたナポリターナ。ファルヴォは歌い手から作曲に転向し、流麗で情熱的な旋律の曲を多く書いた。

(ひらばやし・かおり)

歌詞対訳

1. Addio, sogni di gloria! (Carlo Innocenzi)

Quando ragazzi felici andavamo alla scuola,
con la cartella a tracolla ed in tasca la mela,
per il futuro avevamo un vestito di gala.
Quanti ricordi di celebrità!
Ma inesorabile il tempo tracciava il cammino,
e a testa china anneghiamo nel nostro destino!

Addio, sogni di gloria!
Addio, castelli in aria!

Guardo con sordo rancore la mia scrivania,
cerco scacciare, ma invano, la monotonia.
Addio, anni di gioventù,
perchè, perchè non ritornate più?

Sono una foglia d'autunno che nella tormenta
teme il grigiore dei giorni l'inverno paventa!
La donna sincera aspettai,
compagna dei sogni miei,
ma invano cercai, cercai.
Amore anche tu, dove sei?

Addio, sogni di gloria!
Addio, castelli in aria!

Prendo la penna e continuo la doppia partita,
faccio una macchia d'inchiostro
mi treman le dita.

Meglio tacer le memorie,
o vecchio cuor mio...Sogni di gloria, addio!
(M.Rivi)

1. さらば、栄光の夢よ! (カルロ・インノチェンツィ)

若者たちが学生鞆をななめにかけて
ポケットにリンゴをしのぼせ、幸せに学校に通っていた頃、
ぼくらは将来に向けて華やかに装っていた。
いくつもの名声の思い出!
だけど避けられない時が道を描き出す
ぼくらはうなだれて運命の中に溺れよう!

さらば、栄光の夢よ!
さらば、空中の楼閣よ!

ぼくは恨みを秘めて机を見つめ、
すべてを振り払おうとする、けれど虚しく、単調な日々。
さらば、青春の年月よ、
なぜ、どうしてももう戻ってはこないのだ?

ぼくは恐ろしい冬の憂うつな日々の
苦痛を恐れる一枚の秋の葉だ!
誠実な女性を待ち望んだ、
ぼくの夢の仲間として、
だけどいくら探しまわっても無駄だった。
愛よ、おまえもか、一体どこにいるのだ?

さらば、栄光の夢よ!
さらば、空中の楼閣よ!

ペンをとり、たっぶり絶え間なく
インクの跡をつけていくと
指がふるえている。

思い出は語らないほうがいい、
ああ、老いたぼくの心…栄光の夢よ、さようなら!
(M.リーヴイ)

2. Sento nel core (Alessandro Scarlatti)

Sento nel core certo dolore,
che la mia pace turbando va.
Splende una face, che l'alma accende,
se non è amore, amor sarà.

3. Già il sole dal Gange (Alessandro Scarlatti)

Già il sole dal Gange, più chiaro sfavilla
e terge ogni stilla dell'alba che piange.
Col raggio dorato ingemma ogni stelo
e gli astri del cielo dipinge nel prato.

4. Ave Maria (Giulio Caccini)

Ave Maria. Ave. Amen.

5. Amarilli (Giulio Caccini)

Amarilli, mia bella,
non credi, o del mio cor dolce desio,
d'esser tu l'amor mio?
Credilo pur:
e se timor t'assale, dubitar non ti vale.
Aprimi il petto e vedrai scritto in core:
Amarilli...è il mio amore.

(Giovanni.B.Guarini)

2. 私は心に感じる (アレッシンドロ・スカラルラッティ)

私は心に感じます
安らぎをかき乱す苦しみを。
魂を燃やすひとつの松明が輝いています
もしこれが愛でないとしても、やがて愛となるでしょう。

3. 陽はすでにガンジス川から (アレッシンドロ・スカラルラッティ)

すでに太陽はガンジス川からさらに明るく輝き
暁が流した涙のあらゆる滴を乾かす。
金色に輝く日の光ですべての草木を飾り
大空の星々を草原に描き出す。

4. アヴェ・マリア (ジュリオ・カッチーニ)

恵み深きマリア様、我らのために祈りたまえ。

5. アマリリ (ジュリオ・カッチーニ)

アマリリ、ぼくの美しい人、
きみは信じないのかい、ああ、ぼくの心の甘い憧れ、
きみこそぼくが愛する人だということ？
どうか信じておくれ、
そしてきみを不安が襲っても疑うことはない。
ぼくの胸を開ければ、心に書き記されているのがわかるから
“アマリリは、ぼくの愛”と。

(ジョヴァンニ・バッティスタ・グァリーニ)

6. Dolente immagine di Fille mia (Vincenzo Bellini)

Dolente immagine di Fille mia,
perchè sì squalida mi siedi accanto?
Che più desideri?
Diroto pianto io sul tuo cenere versai finor.

Temi che immemore de'sacri giuri
io possa accendermi ad altra face?
Ombra di Fillide, riposa in pace;
è inestinguibile l'antico ardor.

7. Malinconia, Ninfa gentile (Vincenzo Bellini)

Malinconia Ninfa gentile,
la vita mia consacro a te;
I tuoi piaceri chi tiene a vile,
ai piacer veri nato non è.

Fonti e colline chiesi agli Dei;
m'udiro alfine, pago io vivrò,
Nè mai quel fonte co'desir miei,
nè mai quel monte trapasserò.
No, no, mai.

(Ippolito Pindemonte)

8. Amore e morte (Gaetano Donizetti)

Odi d'un uom che muore,
odi l'estremo suon
quest'appassito fiore ti lascio Elvira in don.
Quanto prezioso ei sia tu dei saperlo appien
nel dì che fosti mia te lo involai dal sen.

6. 私のフィリデの悲しげな姿 (ヴィンチェンツォ・ベッリーニ)

ぼくのフィルの悲しげな幻よ、
どうして蒼ざめてぼくの傍らに座っているの?
これ以上、何を望むというの?
ぼくはこれまでとめどない涙をおまえの亡骸に注いだのに。

おまえはあの聖なる誓いを忘れて
ぼくがほかの炎に燃えるのではないかと恐れているの?
フィリデの亡霊よ、安らかにご覧り
昔の情熱が消えることなどないのだから。

7. マリンコニア、優しい妖精よ (ヴィンチェンツォ・ベッリーニ)

優しい妖精のマリンコニアよ、
ぼくの命をあなたに捧げよう。
あなたの魅力をさげすむひとは、
真の喜びにはふさわしくない。

泉と丘とを神々に求め、
ついにかなえられたのだ、ぼくは満ち足りて生きるだろう。
決してぼくの願いがあの泉を、
決してあの山を越えることはないだろう。
決してないだろう。

(イッポリト・ピンデモンテ)

8. 愛と死 (ガエターノ・ドニゼッティ)

聞いておくれ、死んでいく男の言うことを、
最後の声を聞いておくれ、
ぼくはこのしおれた花を、エルヴィーラ、おまえに贈ろう。
どれほどこれが貴いか、おまえはよく分かっているだろう、
おまえがぼくのものだった日に、その胸から奪ったのだ。

Simbolo allor d'affetto or pegno di dolor
torna a posarti in petto questo appassito fior
e avrai nel cor scolpito,
se duro il cor non è
come ti fu rapito
come ritorna a te.

9. Me voglio fà 'na casa (Gaetano Donizetti)

Me voglio fà 'na casa miez"o mare
fravecata de penne de pavune
tral-la la le la...

d'oro e d'argiente voglio fa li grade
e de prete preziose li baccune
tral-la la le la...

Quando Nennella mia se va a affaciare,
ognuno dice, mo'spunta lu sole
tral-la la le la...

(Gaetano Donizetti)

10. La danza (Gioacchino Rossini)

Già la luna è in mezzo al mare,
mamma mia, si salterà;
l'ora è bella per danzare,
chi è in amor non mancherà.

Presto in danza a tondo,
donne mie, venite qua,
un garzon bello e giocondo a ciascuna toccherà.
Finchè in ciel brilla una stella,
e la luna splenderà,
il più bel con la più bella tutta notte danzerà.

あの頃は愛の印だったのに、今は苦みの証となった花、
再びその胸につけてほしい、このしおれた花を、
そうすればその心に刻みこまれるだろう、
もしその心が無情でないのなら、
この花がどのようにおまえから奪われ、
どのようにおまえに戻ったのか。

(ラダエリ)

9. 私は家を建てたい (ガエターノ・ドニゼッティ)

ぼくは海のなかに家を建てたい、
孔雀の羽根で造るんだ。
トララララレラ、トラララララララララ。

階段は金と銀とで造りたい、
それにバルコニーは宝石だ。
トララララレラ、トラララララララララ。

ぼくのネンネッラが顔をのぞかせると
誰もが「ほら、太陽があらわれた」と言うのさ。
トララララレラ、トラララララララララ。

(ガエターノ・ドニゼッティ)

10. 踊り (ジョアッキーノ・ロッシーニ)

もう月は海の真上に、
さあ、踊りましょう。
踊るのにはちょうどいい頃合い、
恋する者はみんな来る。

早く踊りの輪の中に、
娘さんたち、ここへおいで、
男前で陽気な若者がどの娘にもあたる。
空に星がきらめき、
月が輝かきり、
最も立派な男は最も美しい娘と一晩中踊る。

Mamma mia, già la luna è in mezzo al mare,
mamma mia, si salterà,
frinche...mamma mia si salterà...la la ra la ra...

Salta, salta, gira, gira,
ogni coppia a cerchio va,
già s'avanza, si ritira,
e all'assalto tornerà:

Serra, colla bionda,
colla bruna va qua e là,
colla rossa va a seconda,
colla smorta fermo sta.
Viva il ballo a tondo a tondo,
sono un re, son' un bascià,
è il più bel piacer del mondo,
la più cara voluttà.

Mamma mia, già la luna è in mezzo al mare,
mamma mia si salterà,
frinche...mamma mia si salterà...la la ra la ra...
(Carlo Pepoli)

11. In solitaria stanza (Giuseppe Verdi)

In solitaria stanza langue per doglia atroce;
il labbro è senza voce, senza respiro il sen,
come in deserta aiuola, che di rugiada è priva,
sotto alla vampa estiva molle narcisso svien.

Io, dall'affanno oppresso, corro per vie rimote
e grido in suon che potete le rupi intenerir
salvate, o Dei pietosi,
quella beltà celeste;
voi forse non sapreste
un altro amore ordir.

(Jacopo Vittorelli)

さあさ、すでに月は海の真上、
さあ、踊りましょう。
プリンケ、プリンケ...さあ踊ろう...ララララ...

跳んで、跳んで、回って、回って、
どの組も輪になって、
前に進んで、後ろにさがり、
そしてすばやくもとへと戻る。

金髪の娘としっかり抱きあい、
黒髪の娘とここにあそこに、
赤毛の娘と流れにのって、
蒼ざめた娘とはじっとして。
踊りよ万歳、輪になって輪になって
私は王様、私はバシヤ、
踊りはこの世で最も素晴らしい楽しみで、
最も大切な快楽。

さあさ、すでに月は海の真上、
さあ、踊りましょう。
プリンケ、プリンケ...さあ踊ろう...ララララ...
(カルロ・ペーポリ)

11. 孤独な部屋で (ジュゼッペ・ヴェルディ)

寂しい部屋の中で、彼女は激しい苦痛に身をやつれさず、
唇には声もなく、胸には息もない、
露がうばわれ荒れた花園で、
夏の灼熱のもと、しなやかな水仙が萎れるように。

私は抑えつけられた苦しみから、遠い道へと走って行き
岩壁さえもやわらかな響きで叫ぶ
「お救い下さい、憐れみ深い神々よ、
天の美しさをもつあの人を、
あなた方はおそらくもう一人の愛する人を
創ることはできないでしょうから」。

(ヤコブ・ヴィットレリ)

12. Stornello (Giuseppe Verdi)

Tu dici che non m'ami...
anch'io non t'amo...
Dici che mi vuoi ben,
non te ne voglio.
Dici ch'a un altro pesce hai teso l'amo.
Anch'io in altro giardin la rosa coglio.
Anco di questo vo'che ci accordiamo:
Tu fai quel che ti pare,
Io quel che voglio.
Son libera di me, padrone è ognuno.
Serva di tutti e non servo a nessuno.

Costanza nell'amor è una follia;
Volubile io sono e me ne vanto.
Non tremo più scontrando ti per via.
Nè, quando sei lontan mi struggo in pianto.
Come usignuol che uscì di prigionia.
Tutta la notte e il dì folleggio e canto.
Son libera di me, padrone è ognuno;
Serva di tutti e non servo a nessuno.

13. Mattinata (Ruggiero Leoncavallo)

L'aurora di bianco vestita
già l'uscio dischiude al gran sol,
di già con le rose e sue dita
carezza de' fiori lo stuol!

Commosso da un fremito arcano
intorno il creato già par,
e tu non ti desti,
ed invano mi sto qui dolente a cantar.

Metti anche tu la veste bianca
e schiudi l'uscio al tuo cantor!
Ove non sei la luce manca,
ove tu sei nasce l'amor!

(Ruggiero Leoncavallo)

12. ストルネッロ (ジュゼッペ・ヴェルディ)

あなたは私を愛してないって言うけれど...
私だってあなたを愛してなんかないわ...
あなたは私を好きじゃないって言う、
私もあなたを好きじゃないわ。
他の魚に餌をしかけたと言ったわね、
私も別の庭でバラを摘むことにするわ。
このことについても私たちは同意したいと思います。
あなたは好きなことをすればいいわ、
私もしたいことをします。
私は自由の身で、誰でも主人になることができます。
私はみんなの召使いだけど、誰にもお任せしませんわ。

変わらない愛だなんて、ばかげたことだわ、
私は移り気だけど、それを誇りにしているの。
あなたと道で出くわしたって平気だし、
あなたが遠くに行ったらって想い、焦かれて泣いたりしないわ。
カゴから逃げ出たナイチンゲールのように
夜だって昼だってずっと騒いで歌っているわ。
私は自由の身で、誰でも主人になることができます。
私はみんなの召使いだけど、誰にもお任せしませんわ。

13. 朝の歌 (マッティナータ) (ルッジェーロ・レオンカヴァッロ)

白いドレスに包まれた夜明けが
すでに太陽に扉を開けた、
そのバラ色の指先が
花々の群れを愛撫しはじめている!

神秘的なふるえに心は揺り動かされ
あたりには神が創られた自然が姿をあらわしている、
なのにあなたは目覚めない、
そしてむなしくほくほくここで苦しみを歌う。

あなたも白いドレスをまとうて
あなたの歌い手に扉を開けなさい!
あなたがいないところに光はなく、
あなたがいるところには愛が生まれるのです!
(ルッジェーロ・レオンカヴァッロ)

14. Nun me scetà (Ernesto Tagliaferri)

Quanta varche 'e marenare ca se vedono stasera
cu 'na luce sott'a prora
pare ca 'e stelle so' cadute a mare.
Tutt'e canzone Napule,
stanotte 'o core mio vurria canta'
ma addo' ce stanno lagreme, addio felicità.
Canteme oi marena' tutt'e canzone
n'ora famme durmi' sott'a sta luna
famme sunna' c'ancora me vo' bbene
famme'n suonno muri'
nun me scetà.

Cumm'o paggio cantatore ch'a riggina pe'na sera
l'addurmette anema e core,
e po' l'abbandunaie, scetato a mmare.
Tu pure mmiez'e nnuvole
'stu core m'addurmiste 'nbraccia' a tte,
e a mmare, chino 'e lagreme stanotte 'o faie cadè...
Canteme oi marena' tutt'e canzone
n'ora famme durmi' sott'a sta luna
famme sunna' c'ancora me vo' bbene
famme'n suonno muri'
nun me scetà.

(M.Rivi)

15. Senza nisciuno (Ernesto de Curtis)

Tramonta o sole ventiquatt'ore
e sona Ave Maria.
Senza parole me faccio 'a croce
e penso a mamma mia.
Che mala sciorte ahimme!
Sula senza nisciuno
e tu, tu morta si pe' me!

14. 起こさないで (エルネスト・タリアフェリ)

今宵はたくさんの舟が見える、
へさきの下の明かりで
星たちが海に降り注いだようにあらわれる。
今宵、ぼくの心は
あらゆるナポリの歌を歌いたい
だけどぼくは涙を流している、さらば幸せよ。
舟乗りたちよ、すべての歌を歌っておくれ
月の下でひととき眠らせておくれ
愛しいひとがまだぼくを想っている夢を見させ
夢の中で死なせておくれ
起こさないでおくれ。

ある夜、魂も心も女王と眠った
歌う小姓のように、
見捨てられて、海で目覚めた。
おまえもまた雲の真只中で
ぼくの心を腕に抱いて眠らせ、
たくさんの涙とともに今宵、海に落とすのだろう...
舟乗りたちよ、すべての歌を歌っておくれ
月の下でひととき眠らせておくれ
愛しいひとがまだぼくを想っている夢を見させ
夢の中で死なせておくれ
起こさないでおくれ。

(M.リーヴィ)

15. 孤独 (エルネスト・デ・クルティス)

日が沈み、真夜中が訪れ、
アヴェ・マリアの祈りの声が聞こえてくる。
ぼくは言葉もなく十字を切って、
母さんのことを思うんだ。
なんて酷いことだ、ああ!
誰もいなくて、ぼくはひとり
そしてあなたは、あなたは死んでしまった!

E tu addostaie?
tu ridi e si felice o si scuntenta?
Nun chiagne maie?
E stu turmiento mio, nun te turmenta?
Che mala sciorte ahimme!
Sula senza nisciuno
e tu, tu morta si pe' me!

(Antonio Barbieri)

16. Torna a Surriento (Ernesto de Curtis)

Vide 'o mare quant' è bello
spira tantu sentimento,
comme tua chi tiene mente
ca scetato 'o faie sunnà.
Guarda, gua chi stu ciardino,
siente, siè'sti sciure arance
nu profumo accussi fino
dinto 'o core se ne va.
E tu dic' i' part' addio!
T'alluntane da stu core,
da la terra de l'amore
tiene 'o core 'e nun turnà!
Ma nun me lassà,
nun darne stu turmiento!
Torna a Surriento,
famme campà!

Vide 'o mare de Surriento,
che tesoro tene 'nfunno
chi a girato tutto 'o munno
nun l'ha visto comm'a ccà.
Guarda attorno sti serene,
ca te guardano 'ncantate
e te vonno tantu bene
te vulessero vasà.
E tu dic' i' part' addio!

そしてあなたはどこにいるの?
あなたは笑って、幸せに満ちているだろうか?
泣いたりしてないだろうね?
ぼくの苦しみは、あなたにはわからないだろうね?
なんて酷いことだ、ああ!
誰もいなくて、ぼくはひとり
そしてあなたは、あなたは死んでしまった!

(アントニオ・バルビエーリ)

16. 帰れソレントへ (エルネスト・デ・クルティス)

見てごらん、なんてきれいな海だろう
たくさんの愛情があらわれて、
きみの柔らかな言葉が
ぼくを夢見ごちちにさせるように。
ごらん、この庭を、
オレンジの香りがただよっている
この香りが
心の中まで届くようだ。
なのいきみは「私は行くわ、さよなら!」と言う。
ぼくの心から、
愛の土地から遠いところへ、
戻ってくる気はないのか!
ぼくから離れないで、
ぼくを苦しめないで!
帰ってきておくれソレントへ、
ぼくを死なせないで!

見てごらん、ソレントの海を、
海の底には宝物がある
世界中をまわった人も
こみたいに素晴らしいところは見たことがない、
ごらん、まわりの海の精たちを、
きみをうっとり見つめている
きみをとても愛していて
きみに口づけしたいのさ。
なのいきみは「私は行くわ、さよなら!」と言う。

T'alluntane da stu core,
da la terra de l'amore
tiene 'o core 'e nun turnà!
Ma nun me lassà,
nun darne stu turmiento!
Torna a Surriento,
famme campà!

(Giambattista De Curtis)

17. Tu, ca nun chiagne! (Ernesto de Curtis)

Comm'è bella a muntagna stanotte...
Bella accussi nun l'aggio vista maie!
N'anema pare rassignata e stanca
sott' a cuperta e chesta luna janca.
Tu ca nun chiagne e chiagnere me faie,
tu stanotte addò staie?

Voglio a te!
Voglio a te!
Chist'uocchie te vonno
n'ata vota vedè!

Comme'è calma 'a muntagna stanotte...
cchiù calma 'e mo nun l'aggio vista maie!
E tutto dorme— tutto dorme o more...
e i'sulo veglio—
peccchè veglia Ammore...
Tu ca nun chiagne e chiagnere me faie,
tu stanotte addò staie?

Voglio a te!
Voglio a te!
Chist'uocchie te vonno
n'ata vota vedè!

(Libero Bovio)

ぼくの心から、
愛の土地から遠いところへ、
戻ってくる気はないのか!
ぼくから離れないで、
ぼくを苦しめないで!
帰ってきておくれソレントへ、
ぼくを死なせないで!

(ジャンバッティスタ・デ・クルティス)

17. 泣かないおまえ (エルネスト・デ・クルティス)

なんて美しいのだろう、今夜の山は...
これほどの美しさはまだ見たことがない!
魂はけだるく疲れ
この白い月明かりの下で
泣かないおまえが、ぼくを泣かせる、
おまえは今夜、どこにいるのだ?

おまえが欲しい!
おまえが欲しい!
この眼でおまえを
もう一度見たい!

なんて静かなのだろう、今夜の山は...
これほどの静けさをまだ見たことがない!
すべてが眠り—すべてが眠るか死んでいる...
なのにぼくはただひとり目覚めて—
なぜなら愛が目覚めているから...
泣かないおまえが、ぼくを泣かせる、
おまえは今夜、どこにいるのだ?

おまえが欲しい!
おまえが欲しい!
この眼でおまえを
もう一度見たい!

(リベロ・ボヴィオ)

18. Ideale (Francesco Paolo Tosti)

Io ti seguìi com'iride di pace
lungo le vie del cielo:
Io ti seguìi come un'amica face
de la notte nel velo.
E ti sentìi ne la luce, ne l'aria,
nel profumo dei fiori:
E fu piena la stanza solitaria di te,
dei tuoi splendori.

In te rapito,
al suon de la tua voce lungamente sognai:
Ed de la terra ogni affanno,
ogni croce in quel giorno scordai.
Torna, caro ideal,
torna un istante a sorridermi ancora,
e a me risplenderà nel tuo sembiante
una novell'aurora, una novella aurora.
Torna, caro ideal, torna, torna.

(Carmelo Errico)

19. Mañia (Francesco Paolo Tosti)

Cosa c'era ne'l fior che m'hai dato?
Forse un filtro, un arcano poter!
Ne'l toccarlo, 'l mio core a tremato,
m'ha l'olezzo turbato 'l pensier!
Ne le vaghe movenze che ci hai?
Un incanto vien forse con te?
Frema l'aria per dove tu vai,
spunta un fiore ove passa 'l tuo piè!

18. 理想のひと (フランチェスコ・パオロ・トスティ)

ぼくは天の道に沿って、
安らぎの虹のようなあなたの後を追った。
ぼくは夜のヴェールの中で、
やさしい松明のようなあなたを追った。
そしてぼくは、光に、大気に、
花々の香りの中にあなたを感じた。
そして孤独な部屋はあなたで、
あなたの輝きでいっぱい満たされた。

ぼくはあなたに心を奪われ、
あなたの声の響きを長いあいだ夢に見ていた。
そしてぼくはこの世のあらゆる不安と
あらゆる苦しみをその日に忘れたのだ。
帰ってきておくれ、愛しい理想のひとよ。
ひと時でも帰ってきておくれ、もう一度ぼくに微笑むために。
そうすれば、あなたの姿の中で
新たな暁がぼくに光り輝くだろう。

帰ってきておくれ、愛しい理想のひと、帰ってきておくれ。
(カルメロ・エッリーコ)

19. 魅惑 (マリーア) (フランチェスコ・パオロ・トスティ)

あなたがぼくにくれた花には何がはいっていたのか?
おそらく媚薬か、神祕の力だろう!
そおに触れるとぼくの心はふるえ、
その香りはぼくの思いをかき乱す!
あなたのその優美なそぶりは何なのか?
おそらくあなたと一緒に魅惑が訪れるのだろうか?
あなたの行くところで大気は震え、
あなたの足が赴くところで花が現れる!

Io non chiedo qual plaga beata
fino adesso soggiorno ti fu:
non ti chiedo se ninfa, se fata,
se una bionda parvenza sei tu!
Ma che c'è ne'l tuo sguardo fatale?
Cosa ci hai ne'l tuo magico dir?
Se mi guardi, un'ebbrezza m'assale,
se mi parli, mi sento morir!

(Rocco E. Pagliara)

20. 'A vucchella (Francesco Paolo Tosti)

Si comm'a nu sciorillo tu tiene na vucchella
nu poco pocorillo appassuliatella.
Meh, dammillo,
è comm'a na rusella dammillo nu vasillo,
dammillo, Cannetella!
Dammillo e pigliatillo,
nu vaso piccerillo,
comm'a chesta vucchella,
che pare na rusella
nu poco pocorillo appassuliatella.
Si, tu tiene na vucchella
nu poco pocorillo appassuliatella.

(Gabriele D'annunzio)

21. Luna d'estate! (Francesco Paolo Tosti)

Luna d'estate,
ho un sogno nel mio cuore
e vo' cantando tutta notte al mare:
mi son fermata a una finestra in fiore
perchè l'anima mia febbre ha d'amore
Mi son fermata a una finestra in fiore
ove son due pupille affatturate...
E chi le guarda...
soffre per amore e sogna per desio,
luna d'estate, luna d'estate!

あなたが今まで
どんな至福の世界にいたのか訊ねない。
あなたが妖精なのか、魔女なのか、
金髪の幻なのか訊ねない。
だけど、あなたの魅惑的な眼差しには何があるのだろう?
あなたの魔法の言葉には何が隠されているのか?
あなたがぼくを見ると、陶酔がぼくを襲い、
あなたがぼくに語りかけたなら、ぼくは死ぬ思いがする!

(ロッコ・E.ノリアーラ)

20. かわいい口もと (フランチェスコ・パオロ・トスティ)

そう、きみは小さな花のようなかわいい唇を持っているね
少し、ほんのちよっと色褪せた唇を。
ああ、それをちよっとぼくにおくれ、
かわいいソバラのような唇を、ぼくに口づけをおくれ、
与えておくれよ、カンネテッ!
それをおくれ、捉えさせておくれ、
そのかわいらしい口づけを、
このかわいい口もとのような、
かわいいソバラに似たそれは
少し、ほんのちよっと色褪せて...
そう、きみはかわいい唇を持っている
少し、ほんのちよっと色褪せた唇をね。

(ガブリエーレ・ダンヌンツィオ)

21. 夏の月 (フランチェスコ・パオロ・トスティ)

夏の月よ、
ぼくは夢を心に抱いて
一晩中海に歌いかける。
ぼくは花が咲く窓辺で立ち止まった
なぜならぼくの魂が恋に燃えているから
ぼくは花が咲く窓辺で立ち止まった
そこには惑わすような二つの瞳がある...
それを見る者は恋に悩み...
熱望のために夢を見る。
夏の月よ!

Luna d'estate,
amore è come il mare
ed il mio cuore è un'onda senza posa:
ma solamente lo potran fermare
le pupille e il labro suo di rosa
E vo'cantando tutta notte al mare
per quelle due pupille addormentate.
Ho il pianto agli occhi e la speranza in cuore
e splende come te,
luna d'estate, luna d'estate! Ah!

(Riccardo Mazzola)

夏の月よ、
恋は海のように
ぼくの心は休まない波のようだ。
それを止めることができるのは
彼女の瞳とバラ色の唇だけ
ぼくは一晩中、海に歌いかける
あの二つのまどろむ瞳のために。
ぼくは目に涙をため、心に希望を抱き
そしてお前のように輝く、
夏の月よ!ああ!

(リッカルド・マツォーラ)

22. Addio! (Francesco Paolo Tosti)

Cadon stanche le foglie ai suoi,
bianche strisce serpon sull'onda,
lieve nebbia nell'aria fonda,
sembran freddi i rai del sol.
Le rondinelle lasciano il nido
verso altro lido, le trae desio:
Estate, addio! Estate, addio!

Perchè aspettar tuttor,
oh! dolce amor?
Un sol bacio mi dà,
poscia ten va... un altro ancor,
pegno d'eterna fè da te vogl'io,
perchè il tuo cor è fatalmente mio:
Per sempre addio! Per sempre addio!
(G.T.Whyte-Melville/Versione Italiana di F.Rizzetti)

22. さようなら! (フランチェスコ・パオロ・トスティ)

木の葉は疲れて地に落ちて、
白い筋が波の上をうねる、
かすかな霧が大気を支配し、
太陽の光も冷たく見える。
ツバメたちは巣をあとにして
憧れにみちびかれ、他の岸辺に流れ込む、
夏よ、さようなら! 夏よ、さようなら!

どうしてずっと待っているの、
ああ、愛しい人?
たったひとつの口づけを私にくれて、
それから行けばいいのに...もうひとつ、
あなたの誠実の永遠の証がほしいの、
なぜなら、あなたの心は宿命的に私のものだから。
永遠にさようなら! 永遠にさようなら!
(ホフイターメルヴェル/イタリア語訳:F.リツェッティ)

23. Dicitencello vuie (Rodolfo Falvo)

Dicitencello a 'sta cumpagna vostra
ch'aggio perduto 'o suonno e 'a fantasia
c'è penzo sempre,
ch'è tutta 'a vita mia.
'I 'nce 'o vulesse dicere
ma nun 'nce 'o saccio di!
'A voglio bbene,
'a voglio bbene assaie
dicitencello vuie
ca nun m' à scordo maie.
E' na passiona cchiù forte 'e na catena
ca me turmenta ll'anema
e nun me fa campà!

'Na lacrema lucente v'è caduta
diciteme nu poco a cche pensate?
Cu' st'uocchie doce vuie sole me guardate.
Levammece 'sta maschera
dicimmo a verità:
Te voglio bbene,
te voglio bbene assaie
si ttu chesta catena ca nun se spezza maie!
Suonno gentile, suspiro mio carnale
te cerco comm'a ll'aria...
Te voglio pe' campà!

(Enzo Fusco)

23. 君に告げてよ (ロドルフォ・ファルヴォ)

あなたの仲間のあのひとに言ってください
ぼくは夢と幻想を失った
いつもあのひとを想い、
あのひとがぼくの命のすべてだど。
何か言いたいけれど
何も言えない!
ぼくは愛してる、
ぼくは彼女をととても愛してる
だから伝えてください
ぼくには彼女を忘れることはできないと。
情熱は鎖よりも強く
ぼくの魂は苦しんでいる
ぼくは生きていられない!

輝く涙があなたの頬をつたう
ぼくに話しておくれ、何を考えているの?
その優しい目はぼくだけを見つめている。
お互いに仮面をはずして
真実を語り合おう。
ぼくはきみを愛してる、
ぼくはきみをとても愛してる
きみはけっして砕くことのできないこの鎖!
愛らしい夢、ぼくの愛情のため息
ぼくはきみを空気のように求めている...
ぼくが生きるためにはきみが必要なんだ!

(エンツォ・フスコ)

【対訳: 平林香織】



イロナ・トコディ (ソプラノ)

ハンガリーに生まれ、'79年ウィーン国立歌劇場にデビュー、その後幾度となくリリコ・スピントの役柄で出演。ロンドンには'84年、ホセ・カレーラスの相

手役でミミ(「ラ・ボエム」)にてデビュー。ドイツではミュンヘン、バイエルン国立歌劇場で「ラ・ボエム」(ジュゼッペ・パタネ指揮)に出演。ベルリン・ドイツ・オペラには、「アイダ」でデビュー(ゲッツ・フリードリッヒ演出)。その後、「シモン・ボッカネグラ」、「オテロ」(ドミンゴの相手役)に出演。ベルリン国立歌劇場では「マダム・バタフライ」(ジャン・ピエール・ボネル演出)に出演。ハンブルク国立歌劇場では「ドン・カルロ」、「ラ・ボエム」に出演。メトロポリタン歌劇場にはネッダ(「道化師」)、フランコ・ゼッフィレリ演出)、プエノスアイレスのテアトロ・コロンのには、第100回目のミミ役で、バヴァロッチェと共演でデビュー。後、ウィーン国立歌劇場に再び登場し、「シモン・ボッカネグラ」(クラウディオ・アバド指揮)、「マノン・レスコー」(オットー・シェンク演出)に出演。近年はマドリードのサルスエラ歌劇場にデズデーモナ役でドミンゴと共演しスペイン国王夫妻より祝福された。カレーラス、ドミンゴ、バヴァロッチェの三大テノール及び当代随一のバリトン、ファン・ボンスと共演した数少ないソプラノで、'90年代を代表する名ソプラノとして評価は更に高まっている。'97年ハンガリー(ブダペスト)国立歌劇場「宮廷歌手」の称号を史上最年少で授与された。



斎藤雅広 (ピアノ)

東京芸術大学大学院修了。18歳で第46回日本音楽コンクールに優勝し、翌年N響との共演でデビュー。チェルニー・ステファンスカに才能を認められ内弟子として学ぶ。国内の主要オーケストラとの共演の他、外来の演奏家との共演では、ヨゼフ・スーク、ペーター・シュミードル、ヴェンツェル・ブックス、シェ・ウェイ、ヤナー・チェク弦楽四重奏団、ザルツブルク八重奏団等と、また特に世界のオペラ歌手との共演も数多くイロナ・トコディ、グヴェンドリー・ブラッドレー、ラズロ・ボルガール、ハンス・ペーター・プロホヴィッツ、ルチア・アリベルティ等世界超一流の歌手との共演で絶対的信頼を得ている。CD録音も活発で、特にトコディとの3枚のアルバムでは「至芸というほかない」と絶賛を受けた他、ヤナー・チェク弦楽四重奏団、ザルツブルク八重奏団との共演アルバムでも高い評価を得ている。また、NHK教育テレビ「トウトウアンサンブル」のメインキャラクターとして活躍。'99年10月より同テレビ「趣味悠々」にレギュラー講師として出演、絶大な人気を博している。また大阪音楽大学講師として後進の指導にもあたっている。



HDCD®とは

HDCD®は、High Definition Compatible Digital®の略で、米国Pacific Microsonics社が開発した、従来のCDフォーマットと互換性のある高品位デジタル録音・再生方式です。この方式では、高度なDSP技術を用いることにより、多量の情報をリアルタイムに解析し、従来のCDフォーマットを大幅に超えた、最上級のマスター・レコーダーに迫る音楽再現が可能です。

HDCD®方式で記録されたディスクは従来のCD録音・再生装置と完全に互換性があり、通常のCDプレーヤーでも再生できます。さらに、HDCD®デコーダーを内蔵した再生装置では、HDCD®の高解像度、低歪の特性をフルに生かした高品位再生が可能になります。

このCDは、クーナル音響研究所のご協力により、録音、編集、マスタリング、プレス of 全工程においてクーナル製品を使用し最良の状態を保持しています。
これにより、マスター・ディスクのクオリティーにより近づいた音質を提供いたします。

〈取り扱い上のご注意〉

- ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。
- ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射上に軽くふき取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。
- ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。
- ひび割れや変形、又は接着剤等で補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないで下さい。

〈保管上のご注意〉

- 直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。
- ディスクは使用後、元のケースに入れて保管して下さい。
- プラスチックケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。



ROMANTIC ITALIAN SONGS

ILONA TOKODY
MASAHIRO SAITOH

Recording Date : 6, 7 Dec. 1998

Recording Location : North Alpen Culture Center, Toyama

Producer : Tomoyoshi Ezaki

Assistant Producer : Mayumi Yokoi

Recording Director : Miyuki Ito

Balance Engineer : Tomoyoshi Ezaki

Assistant Engineer : Takeshi Muramatsu

Disc Editor : Tomoyoshi Ezaki

Cover Photo : Beck's Studio, New York

Artistic Consultant : Larry Riederman

Musical and Language preparation : József Patkó and Anthony Petrizzo

Coordinator : Shunju Nagamatsu

EXTON

OVCL-00008

EXTON24Bit
RECORDINGC. インノチェンツィ
Carlo Innocenzi (1899-1962)

- ① さらば、栄光の夢よ!
Addio, sogni di gloria! 4:30

A. スカルラッチィ
Alessandro Scarlatti (1660-1725)

- ② 私は心に感じる
Sentò nel core 3:59

- ③ 陽はすでにガンジス川から
Già il sole dal Gange 2:01

G. カッチーニ
Giulio Caccini (1550-1618)

- ④ アヴェ・マリア
Ave Maria 5:05

- ⑤ アマリリ
Amarilli 2:35

V. ベッリーニ
Vincenzo Bellini (1801-1835)

- ⑥ 私のフィリデの悲しげな姿
Dolente immagine di Filie mia 3:16

- ⑦ マリンコニーア、優しい妖精よ
Malinconia, Ninfa gentile 1:21

G. ドニゼッティ
Gaetano Donizetti (1797-1848)

- ⑧ 愛と死
Amore e morte 3:26

- ⑨ 私は家を建てる
Me voglio fà 'na casa 2:21

G. ロッシーニ
Gioacchino Rossini (1792-1868)

- ⑩ 踊り
La danza 3:12

G. ヴェルディ
Giuseppe Verdi (1813-1901)

- ⑪ 孤独な部屋で
In solitaria stanza 4:07

- ⑫ ストルネッロ
Stornello 1:55

R. レオンカヴァッロ
Ruggiero Leoncavallo (1857-1919)

- ⑬ 朝の歌 (マッティナータ)
Mattinata 2:08

E. タリアフェッリ
Ernesto Tagliaferri (1889-1937)

- ⑭ 起こさないで
Nun me scetà 3:29

E. デ・クルティス
Ernesto de Curtis (1875-1937)

- ⑮ 孤独
Senza nisciuno 2:39

- ⑯ 帰れソレントへ
Torna a Surriento 3:56

- ⑰ 泣かないおまえ
Tu, ca nun chiegne! 2:41

F. P. トスティ
Francesco Paolo Tosti (1846-1916)

- ⑱ 理想のひと
Ideale 3:18

- ⑲ 魅惑 (マリーア)
Malia 2:15

- ⑳ かわいい口もと
'A vucchella 2:53

- ㉑ 夏の月
Luna d'estate! 2:05

- ㉒ さようなら!
Addio! 3:33

R. ファルヴォ
Rodolfo Falvo (1873-1937)

- ㉓ 君に告げてよ
Dicitencello vuie 4:02

イロナ・トコディ(ソプラノ)

Ilona Tokody (soprano)

斎藤雅広(ピアノ)

Masahiro Saitoh (piano)

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIOOVCL-00008
STEREO
DDD24Bit
RECORDINGHDCD[®]

このCDは、一定期間貸与非許諾商品ですが、この期間経過後も、権利者の許諾なく賃貸業に使用すること、ネットワーク等を通じてこのCDに収録された音を送信できる状態にすることを禁じます。また、個人的に楽しむなどの場合を除き、著作権法上、無断複製は禁じられています。

99-10-21 © (再) 01.10.20まで

1998年12月6、7日 富山・北アルプス文化センターにて収録
Recording Date: 6,7 Dec.1998

Recording Location: North Alpen Culture Center, Toyama

協力: (財) 上市町健康文化振興財団

TOTAL TIME: 72:25

©©1999 Octavia Records Inc.

Made by Octavia Records Inc., Japan. Unauthorized reproduction prohibited. 